



# ダメ！高齢者虐待

## 高齢者虐待への対応

高齢者虐待への対応は、高齢者の安全確保を優先しますが、その家庭の事情を十分理解し、養護者の心理的・身体的負担を軽くしていくことも必要です。

その例としては介護保険サービス（ショートステイ・デイサービスなど）を活用することによる、養護者の休息時間の確保や、病気（認知症など）についての正しい知識の理解などがあります。

厚生労働省が昨年行った調査では、虐待を受けた高齢者のうち、要介護認定を受けていた方は1万434人（68・2%）、要介護認定を受けていた方で、認知症により、日常生活に支障を来たすような方は6千891人（66・0%）と虐待を受けた高齢者全体の45・1%を占めています。

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上では4人に1人はその症状があるとされています。認知症



は恥ずかしいと思う病気ではありません。病気を正しく理解することでその対応も変わります。

例えば、「トイレの場所が分からない」といった症状はあっても、トイレの場所に目印をつけるなど、養護者が適切に対応することで、状態が改善し、介護負担の軽減につながることを期待できます。

### 『何かおかしい』

『どうしたらいいんだろう』  
そう思ったなら、お気軽に相談窓口ご連絡してください。

### ▼高齢者虐待に関する相談窓口

- 高齢・介護グループ (☎855720)
- または地域包括支援センターあおい (☎830511)
- ゆのか (☎82106)
- 「けいあい」 (☎825005)

人が輝き まちがときめく

## 仲間たち

Group

### 登別洋裁サークル

『登別洋裁サークル』は、洋服や洋服のリフォームなどを楽しむサークルとして結成。現在20人の会員で、月に5回、市民会館で活動をしています。

「洋裁の魅力は、なんと自分も、布やデザインを選んで自分が着たいと思う服を自分で作って着られることです」と語るのは代表の志水千鶴子さん。

「洋服を一から作るとなると、とても大変なのではないですか」との問い掛けに「始めのうちは多少戸惑うこともありましたが、吹越愛子先生からご指導をいただいたり、仲間同士で見たり、話し合ったりしながら洋服を作り上げていくので、初心者の方も楽しく取り組むことができます」と話し、入会を呼び掛けていました。



### 世界に1つだけの洋服を仲間と語らいながら作り上げます



市民文化祭や広報紙でサークルの活動を知り、入会した茨目さん、田澤さん、加藤さんは、「洋裁は、一人でもできるものですが、仲間が集まって、お話をしたり、昼食を楽しんだりしながらの針仕事は格別に楽しいです」「自分で作った洋服は愛着があるので、外出の時にはよく着て出掛けます」「会員の皆さんに勧められて、今まで着たことのない明るい色の洋服にもチャレンジしています」など活動の楽しさを話してくれました。

また、既製服では体になかなか合うものがないため洋裁を始めた中川さんは「自分の体にぴったりな洋服を着ることができるようになってとてもうれしいです」と話してくれました。

入会を希望される方は、志水さん (☎855729) までどうぞ。